

多摩ニュータウン研究

May 2022

No.24

研究ノート

ポストコロナ時代に即した
「まち歩き観光」の推進に関する考察

—多摩市聖蹟桜ヶ丘エリアを事例として

上村 茂・森田 利夫・毛利 康秀

ポストコロナ時代に即した「まち歩き観光」の推進に関する考察

A study of the promotion of city walk tourism after COVID-19 pandemic

一多摩市聖蹟桜ヶ丘エリアを事例として

A case study on the area of Seiseki-Sakuragaoka in Tama City

上村 茂*・森田 利夫**・毛利 康秀***

Uemura Shigeru, Morita Toshio, Mohri Yasuhide

* せいせき観光まちづくり会議，認定NPO法人多摩草むらの会パソコンサロン夢像所長，元多摩市役所市民経済部課税課長

** せいせき観光まちづくり会議座長，元桜ヶ丘商店会連合会会長，元中央商店会会長

*** せいせき観光まちづくり会議，日本大学情報科学研究所客員研究員，静岡英和学院大学准教授

キーワード：観光まちづくり，まち歩き観光，コンテンツツーリズム，バーチャルツーリズム

Keywords: Sightseeing town development, City Walk Tourism, Contents Tourism, Virtual Tourism

1 はじめに

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行(以降「コロナ禍」と表記)は世界的規模で大きな影響を及ぼした。多摩市においても同様で、緊急事態宣言の発令によって大型店や飲食店が休業や営業時間の短縮を余儀なくされたほか、「せいせき桜まつり」「せいせき朝顔市」などの地域イベントも軒並み中止となり、市民はマスクの確保やワクチンの接種に追われるなどの対応を強いられた。

コロナ禍は社会のあり方を大きく変え、特に観光業に壊滅的な打撃をもたらした。多摩市内においても観光振興の一環として「まち歩き観光」^{注1)}が推進されていたが^{注2)}、コロナ禍のあおりを受けて一時的に停止状態となった。2021年以降は、十分な感染予防対策を施しながら、取り組みが徐々に再開されつつある。

本稿においては、ポストコロナ時代に即した多摩市の「まち歩き観光」は、どのようなあり方が考えられるか、という問題意識のもとで論考を進めた。多摩市は多摩ニュータウンがある街として全国的に知られており、ベットタウンが連想されることが多く、観光地としてのイメージは弱いとされるが、桜や紅葉の名所、史跡、文化財、体験学習施設、レジャー施設などの多くの観光資源が散在している。また、市内には「ハローキティ」をはじめとする様々なサンリオキャラクターと親しめる「サンリオピューロランド」や「ラスカル」

などで知られる世界名作劇場シリーズを制作した日本アニメーション株式会社のスタジオが立地しているほか、スタジオジブリ作品「平成狸合戦ぽんぽこ」および「耳をすませば」の舞台・モデル地にもなっており^{注3)}、多摩市はこれらの良質なコンテンツ群にちなんだ観光(ツーリズム)、すなわち「コンテンツツーリズム」^{注4)}の観光資源に恵まれている。これらのコンテンツを求めて、国内外から多くのファンが多摩市を訪れていたが、コロナ禍以降はどのような動きになっているのであろうか。

また、コロナ禍を契機として「バーチャルツーリズム」^{注5)}への関心が高まっている^{注6)}。自宅から気軽に参加できるバーチャルツーリズムは、まず感染予防策の一つとして有効である。物理的な移動を伴うものではないが、地域への親しみを涵養し、将来に実際に訪問するための事前体験になるほか、地域の特産品を配送するなどのオプションも活用すれば地域にもメリットがあると考えられ、実施例が増えつつある^{注7)}。多摩市を目的地としたバーチャルツーリズムの可能性はどのくらい見込めるのであろうか。

本稿では、多摩市における「まち歩き観光」について、コロナ禍の前後における取り組みの状況を取りまとめる。続いて、多摩市を訪れた観光客を対象としたアンケート調査を実施し、コロナ禍における「まち歩き」観光の実態を把握するとともに、多摩市を目的地としたバーチャルツーリズムについての意向を確認する。これらのデータをもとに、ポストコロナ時代を目指した多摩市の「まち歩き観光」の展開可能性についての検討を行う。

2 多摩市および近隣市における「まち歩き観光」の推進の状況

ここでは、多摩市における観光振興に関する取り組みの状況について取りまとめる。

多摩市はこれまでに多くの映画やドラマ、アニメーション作品等のロケ地やモデル地になってきた。特に、1995年に公開されたスタジオジブリの映画「耳をすませば」のモデル地になったことで全国からファンが訪れるようになり、2005年に公開10周年を記念するイベントの開催が成功を収めたことを契機として、多摩市聖蹟桜ヶ丘エリアを中心とした地域振興・観光振興を目指す活動が本格的に始まった^{注8)}。この活動は、「せいせき観光まちづくり会議」に引き継がれ、現在に至っている。

多摩市が市内への観光を推進するための体制を整えたのは、市民経済部に経済観光課が設置された2008年のことである。2015年には、改組によって同部内に観光担当課長が新設されて、多摩市への一層の観光振興を目指すための態勢が強化された。多摩市による「まち歩き観光」に関連する企画も2015年度から行われている^{注9)}。2016年には多摩市と日本アニメーションとの間で地域活性化に関する連携協定が締結され、「ラスカル」をはじめとする同社のキャラクターを活用した事業展開が進められている^{注10)}。この頃から、東京都においても多摩地域における「まち歩き観光」が重視されるようになってきている^{注11)}。

2018年には稲城・多摩・町田の3市が連携して「南多摩3市観光連携推進協議会」^{注12)}が立ち上がり、近隣の自治体と連携した観光振興が進められている。2019年には「多摩市観光まちづくり交流協議会」^{注13)}も設立され、産学官民が連携して多摩市の観光まちづくりを推進する取り組みを実施している。公式Instagramも開設され、地域の魅力を発信する試みが続けられている。

これらの取り組みは、2020年のコロナ禍の発生によって一時的な中断状態を余儀なくされたが、枠組みとしては存続している。2021年以降、コロナ禍の落ち着きとともに、十分な感染予防対策を施した上でイベントを実施する試みが行われている。一例として、2021年11月から12月にかけて「稲城・多摩・町田甘いもん巡りサイクリングツアー」や「親子で巡る南多摩3市スカイバスツアー」といった、稲城市・多摩市・町田市の魅力を再発見するための観光ツアーを催行したことが挙げられる^{注14)}。

多摩市聖蹟桜ヶ丘エリアを対象とした観光ツアーと

しては、2021年12月に「～物語を追体験～聖蹟桜ヶ丘“聖地”巡礼ツアー」^{注15)}が開催されて好評を博した。同ツアーの案内チラシを図1に示す。

このほか、多摩市に本拠を置く「歴史古街道団」が主催するツアーも、幾つかはコロナ禍の影響で中止となったものの、持続的に開催され続けている^{注16)}。これらのツアーは、主に屋外で実施されるため「密」になりにくいことから、ウイルス感染予防対策を行う上で有利であり、コロナ禍にも強い形態であると言える。コロナ禍の終息とともに、さらなる充実が期待されている。



図1 「“聖地”巡礼ツアー」募集チラシ
(南多摩3市観光連携推進協議会)

3 アンケート調査の集計・分析

3.1 調査の目的と方法

本稿で採り上げるアンケート調査は、コロナ禍における聖蹟桜ヶ丘エリアの「まち歩き」の実態把握を目的として、「せいせき観光まちづくり会議」が実施した^{注17)}。調査方法は、「まち歩き」を主な目的として聖蹟桜ヶ丘を訪れ、「アトリエタッセル」「dining 和桜」「ノア洋菓子店」(50音順)のいずれかの店舗を最初に訪れた人を対象とし、店頭でアンケート用紙を配布してその場で記入してもらい、回収する形式とした。対象数は500に設定し、回答数が500に達するまで実施した^{注18)}。実施の概要は以下の通りである。

実施期間：2021年8月～11月

対象数：500

回収数：498 (有効回答数：496)

アンケートは498通が回収されたが、性別・年齢・居住地が空欄の回答や、白紙に近い回答は除外したので、有効回答数は496となった。店舗別の内訳は、「アトリエタッセル」が38(うち有効回答38)、「dining 和桜」が160(うち有効回答159)、「ノア洋菓子店」が300(うち有効回答299)である。

アンケートは性別・地域別に集計した。男女別の内訳は、男性209名、女性287名である。地域別の内訳は、多摩市内73名、東京都内(多摩市を除く)256名、他道府県167名である。必要に応じて過去の調査結果との比較も行う。

3.2 調査結果の概要

回答者の性別の内訳は表1のようになった。男性が42.1%、女性が57.9%で女性が多いが、前回までの調査と比較すると男性の割合が上昇している^{注19)}。

回答者の居住地別の内訳は表2のようになった。男女別での有意差はなく、多摩市内からは1割5分ほど、多摩市内を除く東京都内からは5割ほどである。日帰りが可能な多摩市内・東京都・首都圏3県(神奈川県・埼玉県・千葉県)からの来訪は94.0%(466名)と、全体のほとんどを占めている。この比率は前回までの調査よりも大幅に上昇しており、コロナ禍の影響によって宿泊を必要とする遠方からの来訪が減っていることを示している^{注20)}。前回のアンケート(2019年)では、外国からの来訪が3.6%(26名)いたが、今回はわずか0.8%(4名)にとどまった^{注21)}。これも、コロナ禍の影響により海外からの観光客が訪れにくくなっていることを示している。

回答者の世代の分布は表3のようになった。30代以下の世代の合計で80.0%(397人)となり、8割を占めている。これまでの調査においても若い世代が多数を占めていたが、前回調査よりも若い世代の占める割合が上昇している^{注22)}。これも、コロナ禍の影響により、比較的高い年齢層が活動を自粛している傾向を反映しているのではないかと考えられる。

何人で聖蹟桜ヶ丘を訪問したかについては表4のようになった。全体では2人での訪問が6割以上を占めている。居住地別では、多摩市内に「ひとりで」が多く、男女別では男性に「ひとりで」が多くなっている。3名以上のグループでの訪問は全体的に少ない。これも、コロナ禍によって多人数で集まることを避ける「密にならない」行動様式が意識されていることが考えられる。多摩市在住者については、近場であることから一人で気軽に出かけられるためと考えられる。

表1 回答者の内訳(2021年)

	全体		居住地別					
			多摩市内		東京都内		他道府県	
	人	%	人	%	人	%	人	%
男性	209	42.1%	28	38.4%	110	43.0%	72	43.1%
女性	287	57.9%	45	61.6%	146	57.0%	95	56.9%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%

ns

表2 回答者の居住地(2021年)

	全体		男女別			
			男性		女性	
	人	%	人	%	人	%
多摩市内	73	14.7%	28	13.4%	45	15.7%
東京都	256	51.6%	110	52.6%	146	50.9%
首都圏3県(神奈川・埼玉・千葉)	137	27.6%	57	27.3%	80	27.9%
北海道	3	0.6%	1	0.5%	2	0.7%
東北	2	0.4%	0	0.0%	2	0.7%
関東	2	0.4%	1	0.5%	1	0.3%
中部	6	1.2%	0	0.0%	6	2.1%
近畿	6	1.2%	6	2.9%	0	0.0%
中国・四国	1	0.2%	1	0.5%	0	0.0%
九州・沖縄	6	1.2%	4	1.9%	2	0.7%
外国	4	0.8%	1	0.5%	3	1.0%
合計	496	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

聖蹟桜ヶ丘を「まち歩き」する理由については表5のようになった(複数回答可)。多摩市内からの来訪者は地元の散策として訪れている割合が高くなっている。他は、映画「耳をすませば」のモデル地を探索するため、とする回答が圧倒的である。1995年に公開されてから四半世紀が経過しても映画「耳をすませば」は根強い人気を保っており、コロナ禍においても衰えていないことを再確認させられる。「ラスカル」などで知られる日本アニメーションのスタジオがある街の探索とする回答は非常に少ない。

聖蹟桜ヶ丘への訪問回数は表6のようになった。居住地が多摩市内と回答した73名のうち、聖蹟桜ヶ丘エリアに在住と回答した人が64名いた。多摩市在住者を除くと、6割前後が「初めての訪問」と回答した。男女別では女性の方が初訪問の割合が高く、男性は3割以上が3回以上訪問している。「耳をすませば」のファンは女性が多いが、繰り返し訪問する熱心なファンは男性の方が多いことが分かる。

コロナ禍以降の聖蹟桜ヶ丘への訪問回数は表7のようになった。コロナ禍以降初めての訪問したという回答が7割近くに迫り、これまで訪問経験がある人も自粛していたことをうかがわせる。

多摩市では2015年度から聖蹟桜ヶ丘エリアで「まち歩き」企画を実施しているが^{注23)}、これを知っていたかについて質問したところ、表8のようになった。全体では9割近くが「知らなかった」と回答している。多摩市在住者でも知っていたのは2割ほどと少ない。しかし、これは逆に考えればコロナ禍において「まち

表3 回答者の世代(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県		男性	女性		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
10代以下	73	14.7%	15	20.5%	44	17.2%	14	8.4%	21	10.0%	52	18.1%
20代	200	40.3%	17	23.3%	99	38.7%	84	50.3%	73	34.9%	127	44.3%
30代	124	25.0%	9	12.3%	70	27.3%	45	26.9%	67	32.1%	57	19.9%
40代	51	10.3%	13	17.8%	27	10.5%	11	6.6%	27	12.9%	24	8.4%
50代	26	5.2%	4	5.5%	11	4.3%	11	6.6%	9	4.3%	17	5.9%
60代	8	1.6%	5	6.8%	1	0.4%	2	1.2%	5	2.4%	3	1.0%
70代以上	12	2.4%	9	12.3%	3	1.2%	0	0.0%	5	2.4%	7	2.4%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

** P<0.05

表4 何人で訪問したか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県		男性	女性		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
ひとりで訪問	114	23.0%	29	39.7%	53	20.7%	32	19.2%	60	28.7%	54	18.8%
2人で訪問	305	61.5%	28	38.4%	167	65.2%	110	65.9%	118	56.5%	187	65.2%
3人以上で訪問	76	15.3%	15	20.5%	36	14.1%	25	15.0%	30	14.4%	46	16.0%
未回答	1	0.2%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

* P<0.1

表5 聖蹟桜ヶ丘を「まち歩き」する理由(2021年):複数回答可

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県		男性	女性		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
耳をすませばのモデル地の探索	394	79.4%	25	34.2%	220	85.9%	149	89.2%	156	74.6%	238	82.9%
日本アニメスタジオがある街の探索	12	2.4%	3	4.1%	3	1.2%	6	3.6%	5	2.4%	7	2.4%
多摩市を訪問したついで	20	4.0%	1	1.4%	15	5.9%	4	2.4%	9	4.3%	11	3.8%
過去にまち歩きをしていて再訪	54	10.9%	1	1.4%	32	12.5%	21	12.6%	31	14.8%	23	8.0%
地元の散策として訪問	51	10.3%	45	61.6%	5	2.0%	1	0.6%	23	11.0%	28	9.8%
その他	64	12.9%	10	13.7%	37	14.5%	17	10.2%	31	14.8%	33	11.5%
回答計	595		85		312		198		255		340	

%は回答者数nに対するもの n= 496 n= 73 n= 256 n= 167 n= 209 n= 287

表6 聖蹟桜ヶ丘への「まち歩き」訪問回数(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県		男性	女性		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
初めて	254	51.2%	1	1.4%	149	58.2%	104	62.3%	90	43.1%	164	57.1%
2回目	64	12.9%	0	0.0%	40	15.6%	24	14.4%	26	12.4%	38	13.2%
3回目以上	109	22.0%	8	11.0%	64	25.0%	37	22.2%	66	31.6%	43	15.0%
地元に住んでいる	64	12.9%	64	87.7%	0	0.0%	0	0.0%	24	11.5%	40	13.9%
未回答	5	1.0%	0	0.0%	3	1.2%	2	1.2%	3	1.4%	2	0.7%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

*** P<0.01

表7 コロナ禍以降の聖蹟桜ヶ丘への「まち歩き」訪問回数(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県		男性	女性		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%		
初めて	330	66.5%	3	4.1%	197	77.0%	130	77.8%	131	62.7%	199	69.3%
2回目	54	10.9%	5	6.8%	32	12.5%	17	10.2%	25	12.0%	29	10.1%
3回目以上	35	7.1%	1	1.4%	21	8.2%	13	7.8%	20	9.6%	15	5.2%
地元に住んでいる	64	12.9%	64	87.7%	0	0.0%	0	0.0%	24	11.5%	40	13.9%
未回答	13	2.6%	0	0.0%	6	2.3%	7	4.2%	9	4.3%	4	1.4%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

ns

歩き」企画を知らなくても、聖蹟桜ヶ丘を訪れる人が多数いることを表しており、地域振興・観光振興の観点からみれば心強い傾向である。

来年度以降に聖蹟桜ヶ丘で「まち歩き」企画が開催されたら参加したいかについて質問したところ、表9のようになった。「ぜひ参加したい」「内容次第では参加したい」を合わせて6割、コロナ禍の終息を条件として参加したい人も合わせると、参加の意向がある回答は9割にもものぼった。具体的にどのように企画・実施して「おもてなし」をしていくかが課題となる。男女別では、女性に参加意欲の高い傾向が認められた。

多摩市では「ラスカル」をはじめとする日本アニメーションのキャラクターを活用した地域振興・観光振興が進められているが、多摩市内に日本アニメーションのスタジオがあることを知っていたかについて質問したところ、表10のようになった。多摩市在住者は知っている人の方が多かったが、全体としては8割が「知らない」と回答しており、周知活動による知名度の上昇が今後の課題として浮かび上がる。男女別では有意な差はなかった。

「ラスカル」にちなんだコラボレーショングッズやカフェ等で提供されるメニュー等を利用したいかについて質問したところ、表11のようになった。居住地別の

差はなく、「ぜひ利用してみたい」「内容によっては利用したい」を合わせると、全体で4分の3が利用の意向を示した。男女別では女性の方がより意欲が高く、新たなグッズやメニューの開発およびアピールが求められる。

今回のアンケートでは、バーチャルツアー（オンラインツアー）についての質問項目も設けた。これは、前述したようにコロナ禍をきっかけとして注目が高まり、クラウド型のビデオチャットサービスであるZoomのシステムを活用して世界各地のガイドとつないで現地を案内する形態でのオンラインツアーが多く提供され、一定の利用者を獲得している。オンラインツアー（バーチャルツアー）について知っているかどうかについて質問したところ、表12のようになった。居住地別・男女別の違いはなく、全体的に「知らなかった」とする回答が4分の3を占め、実際に参加経験があると回答したのはわずかに2.0%（10人）であった。他の調査でも似たような数値が出ており^{注24)}、注目が高まりつつあるとはいえ、より広範な周知および利用の拡大はまだこれからという状況である。

「耳をすませば」のモデル地を巡るオンラインツアーが開催された場合、これを利用したいかについて質問すると表13のようになり、日本アニメーションが制作

表8 多摩市による「まち歩き」企画は知っていたか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
	人	%	多摩市内		東京都内		他道府県					
			人	%	人	%	人	%				
知っていた、参加したこともある	12	2.4%	1	1.4%	6	2.3%	5	3.0%	7	3.3%	5	1.7%
知っていたが、参加しなかった	39	7.9%	17	23.3%	10	3.9%	12	7.2%	22	10.5%	17	5.9%
知らなかった	436	87.9%	51	69.9%	235	91.8%	150	89.8%	177	84.7%	259	90.2%
未回答	9	1.8%	4	5.5%	5	2.0%	0	0.0%	3	1.4%	6	2.1%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

ns

表9 来年度以降に聖蹟桜ヶ丘で「まち歩き」企画が開催されたら参加したいか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
	人	%	多摩市内		東京都内		他道府県					
			人	%	人	%	人	%				
ぜひ参加したい	101	20.4%	12	16.4%	50	19.5%	39	23.4%	39	18.7%	62	21.6%
内容次第では参加したい	192	38.7%	28	38.4%	103	40.2%	61	36.5%	76	36.4%	116	40.4%
コロナ禍が終息したら参加したい	141	28.4%	18	24.7%	74	28.9%	49	29.3%	62	29.7%	79	27.5%
あまり参加したくない	31	6.3%	7	9.6%	16	6.3%	8	4.8%	22	10.5%	9	3.1%
その他	19	3.8%	2	2.7%	7	2.7%	10	6.0%	6	2.9%	13	4.5%
未回答	12	2.4%	6	8.2%	6	2.3%	0	0.0%	4	1.9%	8	2.8%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

* P<0.1

表10 日本アニメーションのスタジオが多摩市にあるのを知っていたか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
	人	%	多摩市内		東京都内		他道府県					
			人	%	人	%	人	%				
知っていた	92	18.5%	41	56.2%	33	12.9%	18	10.8%	44	21.1%	48	16.7%
知らなかった	393	79.2%	27	37.0%	217	84.8%	149	89.2%	162	77.5%	231	80.5%
未回答	11	2.2%	5	6.8%	6	2.3%	0	0.0%	3	1.4%	8	2.8%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

*** P<0.01

ns

する「世界名作劇場」にゆかりのある場所を巡るオンラインツアーは表14のようになった。「耳をすませば」については、居住地別・男女別の違いはなく、「ぜひ利用してみたい」「内容によっては利用したい」を合わせると、全体で4分の3が利用の意向を示した。実際に聖蹟桜ヶ丘を訪問している人を対象としたアンケートであるにも関わらず、この数値の高さは注目に値する。「世界名作劇場」についても7割近くが利用の意向を示し、男女別では女性の方により高い傾向が認められた。「世界名作劇場」の舞台は世界各地に散在しているので、それぞれの作品の世界観に親しみながらオンラインツアーで手軽に体験できるというのは貴重な機会になるかもしれない。

「多摩市」と聞いて思い浮かぶイメージについて質

問し、直感的に思い浮かぶイメージについて複数回答で答えてもらったところ、表15のようになった。これによると、最も多かったのが「耳をすませばのモデルの街」で77.8% (386人)、2番目に多かったのは「多摩ニュータウンがある街」で47.8% (237人)となり、前回の調査結果と同様の傾向を示した^{注25)}。多摩市のイメージとして「ニュータウン」や「ベッドタウン」が挙げられることが多いが、それらを大きく上回ったことは注目に値する。「暮らしやすそう」も3番目に入り、「まち歩き」によって実際の風景を見たことで印象づけられる様子が見えてくる。

「ハローキティに会える街」が4番目に入ったことも注目される。多摩市ではハローキティを活用した「ハローキティにあえる街」の取り組みが進められて久し

表11 「ラスカル」のコラボグッズやメニュー等を利用したいか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県					
	人	%	人	%	人	%	人	%				
ぜひ利用してみたい	127	25.6%	21	28.8%	62	24.2%	44	26.3%	47	22.5%	80	27.9%
内容によっては利用したい	248	50.0%	33	45.2%	129	50.4%	86	51.5%	98	46.9%	150	52.3%
あまり利用したいとは思わない	47	9.5%	4	5.5%	28	10.9%	15	9.0%	31	14.8%	16	5.6%
わからない	59	11.9%	11	15.1%	28	10.9%	20	12.0%	27	12.9%	32	11.1%
未回答	15	3.0%	4	5.5%	9	3.5%	2	1.2%	6	2.9%	9	3.1%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

** P<0.05

表12 オンラインツアー（バーチャルツーリズム）は知っていたか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県					
	人	%	人	%	人	%	人	%				
知っていた、参加したこともある	10	2.0%	2	2.7%	7	2.7%	1	0.6%	4	1.9%	6	2.1%
知っていたが、参加していない	95	19.2%	19	26.0%	49	19.1%	27	16.2%	43	20.6%	52	18.1%
知らなかった	376	75.8%	47	64.4%	191	74.6%	138	82.6%	155	74.2%	221	77.0%
未回答	15	3.0%	5	6.8%	9	3.5%	1	0.6%	7	3.3%	8	2.8%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

ns

表13 「耳をすませば」に関連するオンラインツアーは利用してみたいか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県					
	人	%	人	%	人	%	人	%				
ぜひ利用してみたい	157	31.7%	18	24.7%	82	32.0%	57	34.1%	57	27.3%	100	34.8%
内容によっては利用したい	216	43.5%	27	37.0%	110	43.0%	79	47.3%	97	46.4%	119	41.5%
あまり利用したいとは思わない	62	12.5%	12	16.4%	34	13.3%	16	9.6%	31	14.8%	31	10.8%
わからない	48	9.7%	10	13.7%	23	9.0%	15	9.0%	20	9.6%	28	9.8%
無回答	13	2.6%	6	8.2%	7	2.7%	0	0.0%	4	1.9%	9	3.1%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

ns

表14 世界名作劇場に関連するオンラインツアーは利用してみたいか(2021年)

	全体		居住地別				男女別					
			多摩市内		東京都内		他道府県					
	人	%	人	%	人	%	人	%				
ぜひ利用してみたい	85	17.1%	15	20.5%	42	16.4%	28	16.8%	24	11.5%	61	21.3%
内容によっては利用したい	249	50.2%	32	43.8%	127	49.6%	90	53.9%	108	51.7%	141	49.1%
あまり利用したいとは思わない	79	15.9%	9	12.3%	46	18.0%	24	14.4%	43	20.6%	36	12.5%
わからない	72	14.5%	13	17.8%	34	13.3%	25	15.0%	30	14.4%	42	14.6%
無回答	11	2.2%	4	5.5%	7	2.7%	0	0.0%	4	1.9%	7	2.4%
合計	496	100.0%	73	100.0%	256	100.0%	167	100.0%	209	100.0%	287	100.0%

ns

** P<0.05

表15 多摩市と聞いて思い浮かぶイメージ(2021年)：複数回答可

	全体		居住地別			男女別						
	人	%	多摩市内		東京都内		他道府県					
			人	%	人	%	人	%				
「耳をすませば」のモデルの街	386	77.8%	55	75.3%	196	76.6%	135	80.8%	158	75.6%	228	79.4%
多摩ニュータウンがある街	237	47.8%	35	47.9%	132	51.6%	70	41.9%	112	53.6%	125	43.6%
暮らしやすそう	168	33.9%	30	41.1%	87	34.0%	51	30.5%	71	34.0%	97	33.8%
ハローキティに会える街	148	29.8%	34	46.6%	69	27.0%	45	26.9%	57	27.3%	91	31.7%
ベッドタウン	114	23.0%	19	26.0%	58	22.7%	37	22.2%	63	30.1%	51	17.8%
ぜひ住んでみたい街	91	18.3%	4	5.5%	44	17.2%	43	25.7%	34	16.3%	57	19.9%
何かと便利そう	69	13.9%	8	11.0%	29	11.3%	32	19.2%	31	14.8%	38	13.2%
高級な住宅地	66	13.3%	5	6.8%	33	12.9%	28	16.8%	25	12.0%	41	14.3%
観光の街	47	9.5%	5	6.8%	23	9.0%	19	11.4%	17	8.1%	30	10.5%
日本アニメーションのスタジオがある街	44	8.9%	12	16.4%	17	6.6%	15	9.0%	21	10.0%	23	8.0%
キャラクターがたくさんいる街	40	8.1%	8	11.0%	16	6.3%	16	9.6%	20	9.6%	20	7.0%
ずっと住み続けたい街	37	7.5%	28	38.4%	4	1.6%	5	3.0%	18	8.6%	19	6.6%
歴史的な見どころがある街	35	7.1%	9	12.3%	13	5.1%	13	7.8%	14	6.7%	21	7.3%
新しい街	32	6.5%	5	6.8%	15	5.9%	12	7.2%	19	9.1%	13	4.5%
手頃な住宅地	31	6.3%	9	12.3%	12	4.7%	10	6.0%	15	7.2%	16	5.6%
ラスカルに会える街	28	5.6%	13	17.8%	8	3.1%	7	4.2%	14	6.7%	14	4.9%
若い世代が少ない	28	5.6%	10	13.7%	12	4.7%	6	3.6%	17	8.1%	11	3.8%
商業地区	23	4.6%	3	4.1%	13	5.1%	7	4.2%	12	5.7%	11	3.8%
世界名作劇場が生まれた街	21	4.2%	7	9.6%	9	3.5%	5	3.0%	9	4.3%	12	4.2%
完成された街	16	3.2%	3	4.1%	8	3.1%	5	3.0%	7	3.3%	9	3.1%
発展途上である	15	3.0%	4	5.5%	9	3.5%	2	1.2%	8	3.8%	7	2.4%
衰退しつつある	13	2.6%	6	8.2%	3	1.2%	4	2.4%	8	3.8%	5	1.7%
何かと不便そう	9	1.8%	0	0.0%	7	2.7%	2	1.2%	5	2.4%	4	1.4%
若い世代が多い	7	1.4%	3	4.1%	3	1.2%	1	0.6%	3	1.4%	4	1.4%
暮らしにくそう	5	1.0%	0	0.0%	5	2.0%	0	0.0%	4	1.9%	1	0.3%
その他	16	3.2%	2	2.7%	8	3.1%	6	3.6%	8	3.8%	8	2.8%
回答計	1,726		317		833		576		770		956	
	n= 496		n= 73		n= 256		n= 167		n= 209		n= 287	

％は回答者数nに対するもの n= 496 n= 73 n= 256 n= 167 n= 209 n= 287

いが、その成果が現れていると言える。居住地別に見たところ、多摩市在住者は「ハローキティに会える街」「日本アニメーションのスタジオがある街」「ラスカルに会える街」を回答した割合が高い傾向が認められ、地元ゆかりのあるコンテンツおよびキャラクターが認知され親しまれていることが分かる。多摩市在住者は「ずっと住み続けたい街」も多く選択しており、他道府県からの来訪者は「ぜひ住んで見たい街」「何かと便利そう」を回答する割合も高くなっている。これは、地元在住者としての生活実感と、来訪者の「まち歩き」による印象が重なり合っていることを表しており、「訪れてよし、住んでよし」の多摩市の魅力を裏付けていると言える。

4 まとめと今後の課題

本稿は、コロナ禍によって多摩市の「まち歩き観光」がどのような影響を受けているのかの実態を把握し、ポストコロナ時代を見据えた「まち歩き観光」のあり方を描いていくことを目指して論考を進めた。

検討の結果、以前から進められていた取り組みはコロナ禍においても継続していることが確認された。各種協議会等の枠組みを活用し、多摩市のみならず近

隣の自治体とも連携した取り組みを進めていくことで、より相乗的な効果が得られることが期待される。

アンケートの結果からは、日帰り圏からの来訪割合が増えているものの、「耳をすませば」ファンを中心に聖蹟桜ヶ丘の「まち歩き」を行う人は引き続き全国から訪れていることが確かめられた。「まち歩き」企画へのニーズも高かったため、コロナ禍の終息を待っての再開が期待される。

また、聖蹟桜ヶ丘を舞台としたバーチャルツアー（オンラインツアー）への潜在的なニーズもありそのようなことが判明した。既に聖蹟桜ヶ丘を訪問したことのある人にとっては追体験となり、これから聖蹟桜ヶ丘への訪問を考えている人にとっては事前体験の良い機会になるであろう。旅行代理店が提供するオンラインツアーのラインナップに聖蹟桜ヶ丘が加えられるよう働きかけると同時に、地元が企画・運営するオンラインツアーの実現も期待される。オンラインツアーを通じて多摩市の特産品をアピールすることによる消費拡大も目指したいところである。「世界名作劇場」の舞台を巡るオンラインツアーの実現も望まれる。

聖蹟桜ヶ丘エリアのまち歩き観光は、「耳をすませば」のモデル地探訪の延長として行われる要素が強かった

が、それはコロナ禍においても健在であった。この強みを活かしつつ、ポストコロナ時代を見据え、「ラスカル」をはじめとする「世界名作劇場」のキャラクターや「ハローキティ」のさらなる浸透も期待される。これらのコンテンツやキャラクターは、多摩市や聖蹟桜ヶ丘の地域イメージを形成する要素の一つにもなっている。さらに、新たなドラマや映画などのコンテンツ作品の誘致も進めて行きたいところである。

今後とも、特長となる部分を伸ばし、問題点の改善に努めながら、多摩市の魅力をより高められるよう貢献していきたいと考えている。

謝辞

アンケート調査の実施にあたっては、アトリエタッセル、dining 和桜、ノア洋菓子店（50音順、敬称略）の協力をいただいた。ここに謝意を申し上げたい。

前稿のお詫びと訂正

『多摩ニュータウン研究』22号掲載の前稿17ページ（2019年アンケートの集計結果）において、有効回答の記載が逆になるミスがありました。お詫びの上訂正させていただきます。

誤 有効回答：アトリエタッセル 316, dining 和桜 103

正 有効回答：dining 和桜 316, アトリエタッセル 103

注

- 1) 「まち歩き観光」は、「ある地域（まち）を散策することを通して、そこに存在する景観・歴史・生活・産業などの魅力を再発見して楽しむという観光形態」とする定義が多く用いられている。日本におけるまち歩き観光の事業展開に関する先行研究の詳細は、太田（2019）を参照。
- 2) 多摩市における「まち歩き観光」の推進に関する概要は、多摩市公式ホームページの「多摩市のまち歩き」ページを参照。取り組みの詳細については、毛利、森田、佐藤（2017）を参照。
- 3) スタジオジブリの映画「平成狸合戦ぽんぽこ」は多摩ニュータウンエリアが主要な舞台として、映画「耳をすませば」は多摩市聖蹟桜ヶ丘から多摩ニュータウン方面が主要なモデル地として設定されており、映画の公開以降、持続的にファンがモデル地を訪れるようになっている。
- 4) コンテンツツーリズムは「地域に『コンテンツを通じて醸成された地域固有の雰囲気・イメージ』としての『物語性』『テーマ性』を付加し、その物語

性を観光資源として活用すること」とする定義が広く用いられている。詳細は国土交通省他（2005, P.49）を参照。

- 5) バーチャルツーリズムは「ICT技術を活用して実在する観光目的地へ仮想的に到達し、関係者との相互作用を通して観光経験が得られる形態の観光」と措定される。オンラインツアーもバーチャルツーリズムの一形態である。その概念自体は1990年代からあるが、コロナ禍を受けて社会的な注目が高まり、学術的な検討も進められている。バーチャルツーリズムの状況に関する詳細は、毛利（2022）を参照。
- 6) 例えば、Laura Begley Bloomによるforbes.comのバーチャルツーリズムに関する記事を参照。同記事によると、コロナ禍が発生してからバーチャルツーリズムに関する検索が急増している。
- 7) 旅行代理店のJTBやHISやJALグループがバーチャルツーリズムの一形態としてオンラインツアーを提供している。コロナ禍以降、一定の利用者を獲得しており、HISによると、同社がオンライン体験ツアーのサービスを開始した2020年4月から、2021年10月末までの間に累計約5000本のツアーを催行し、体験者数は15万人を突破したという。詳細は同社のニュースリリースを参照。
- 8) 映画「耳をすませば」の公開10周年を記念するイベントが2005年に聖蹟桜ヶ丘で開催され、これが大成功を収めたことから、地域振興・観光振興の取り組みが進められるようになった。2011年には「せいせき観光まちづくり会議」として持続的な取り組みを進める組織形態を整えて現在に至っている。記念イベントの開催および「せいせき観光まちづくり会議」の詳細は、森田、鴨川、毛利（2014）を参照。
- 9) 多摩市の主催による「まち歩き」企画の実施例として、歴史とアニメの聖地を堪能できる「関戸コース」、丘からの眺めとアニメの聖地を満喫できる「東寺方コース」などのコースが設定され、参加してアンケートに回答すると多摩市限定ポストカードなどの景品がもらえるようになっていた。2015年度から2019年度まで毎年実施されたが、2020年以降はコロナ禍のあおりで中断状態となっている。コロナ禍終息後の再開が期待される。「まち歩き」企画の詳細は、毛利、森田、渡邊（2020）を参照。
- 10) 「ラスカル」は、日本アニメーションが制作した「あらいぐまラスカル」に登場したアライグマである。

連携協定に基づき、同社のキャラクターが起用される機会が増え、ラスカルの着ぐるみが市内の各種イベントに登場して写真撮影会や握手会が催されたり、映画祭が開催されたり、市内のカフェでラスカルとのコラボメニューが提供されたり、ラスカルのマンホールが設置されたりしている。取り組みの詳細は、毛利、森田、渡邊（2020）を参照。

- 11) 東京都市長会より、政策提言の一環として『多摩地域における「まち歩き」のすすめ』が2015年に発刊され、2021年に発刊された総括に至るまで、持続的な取り組みが進められている。成果の詳細は、東京都市長会の公式サイト「政策提言」を参照。
- 12) 南多摩3市観光連携推進協議会とは、稲城・多摩・町田の3市が連携し、既存の自然や歴史遺産、観光資源を活用して地域の魅力を都内外や外国に発信することを目的として2018年に設立された組織である。観光事業は「多摩・島しょ広域連携活動助成金」の交付を受けて実施しており、事務局は株式会社JTB東京多摩支店内に置かれている。詳細は、多摩市公式ホームページの当該ページを参照。
- 13) 多摩市観光まちづくり交流協議会（多摩市観光まちづくり交流協議会、n.d.）とは、多摩市への誘客や経済効果を伴う観光振興、定住促進につなげていくことを目的として2019年に設立された組織である。「せいせき観光まちづくり会議」を含め、多摩市にゆかりのある17の会員企業／団体が参加している。産学官民が連携して、多摩市の魅力向上や来街者の増加等に向けた協議を行い、必要と考えられる企画を立案・実施している。詳細は、多摩市公式ホームページの当該ページを参照。
- 14) これらの観光ツアーは、南多摩3市観光連携推進協議会が主催し、株式会社JTB東京多摩支店が実務を担当している。このほか、観光セミナー「ゼロから始めるTwitterの楽しみ方」も実施され(2021年12月)、稲城市・多摩市・町田市の魅力を発信するためのノウハウが広められた。
- 15) このツアーは、「聖地巡礼」を共通テーマとして映画「耳をすませば」のモデル地（アニメの聖地）を追体験しつつ、コース上の酒店（小山商店：酒の聖地）や洋菓子店（ル・プラン：洋菓子の聖地）も回って「観光と食」が堪能できるコンセプトが掲げられた。当日は聖蹟桜ヶ丘駅前に集合して、いろは坂～桜ヶ丘4丁目ロータリー～原峰公園～鎌倉街道～聖蹟桜ヶ丘駅へ戻るコースで、本稿の筆者（森田利夫、上村茂）がガイド役および

スタッフを務めた。詳細は、多摩市公式サイト「南多摩3市観光連携事業」のページを参照。

- 16) 歴史古街道団は、多摩市出身で古街道研究家の宮田太郎氏が代表を務める団体で、本稿の筆者（上村茂）も参加している。多摩市に本拠を置き、「道」から学ぶウォーキングや旅行、講演会・学習会、保全活動などを行っている。2021年後半に開催された大きなイベントとしては、「万葉時代・防人の道“古代東海道ウォーク”2021」（2021年11月）が挙げられる。詳細は、同団体の公式サイトを参照。
- 17) 同様のアンケートは2019年以前にも実施している。アンケートは「まち歩き」企画の一環として多摩市役所市民経済部経済観光課が実施し、「せいせき観光まちづくり会議」が集計と分析を協力している。2020年以降、「まち歩き」企画は行われていないため、今回は「せいせき観光まちづくり会議」が単独でアンケートを実施する形をとった。
- 18) 前回（2019年）のアンケートは「まち歩き」企画の参加者のうち先着1000名が対象数として設定されたが、今回はコロナ禍の影響が残っている時期であることに留意し、半数の500とした。なお、アンケートの実施形態により、同一人物による重複回答が混入する可能性は排除できないが、回答時期および内容の属性から見て、明らかに重複と思われる回答はほとんどないものと推定されたため、有効回答のすべてを対象として分析した。
- 19) 前回（2019年）のアンケートでは、男性37.2%、女性62.5%となっており、2018年は男性37.3%、女性62.7%、2017年は男性35.8%、女性64.2%、2016年は男性35.3%、女性が65.7%であった。若干の変動はあるが、女性の方が多い傾向が続いている。
- 20) 日帰り可能な多摩市内・東京都・首都圏3県（神奈川県・埼玉県・千葉県）からの来訪は、2019年は80.5%（589名）、2018年は84.0%（733名）、2017年は76.4%（661名）、2016年は71.4%の633名となっている。日帰り圏からの来訪率は、今回の調査で大幅に上昇した。なお、今回のアンケート（2021年）における首都圏以外の来訪の内訳は、北海道、宮城、福島、茨城、石川、福井、愛知、大阪、兵庫、奈良、広島、福岡、鹿児島、そして海外からは中国であった。
- 21) アンケートの記述によると、海外からの来訪は全員中国からであった。他に、神奈川県に在住している台湾籍の人の来訪もあった。

- 22) 30代以下の世代が占める割合は、2019年の調査では74.0%(542名)であった。なお、2018年は79.5%(694名)、2017年は85.0%(735名)、2016年は89.3%(792名)であり、若い世代の占める割合は減少傾向にあったが、今回は再び増加に転じている。
- 23) 2015年度に、音声ガイドによる「まち歩き」企画である「聖蹟桜ヶ丘周辺まち歩き～タップ・デ・トリップ～」が開催された。多摩市役所市民経済部経済観光課が主催し、「せいせき観光まちづくり会議」が受託した。2016年度から2019年度にかけても後続の「まち歩き」企画が開催されている。取り組みの詳細については、毛利、森田、佐藤(2017)を参照。
- 24) 日本観光振興協会(2021, P10)によると、オンラインツアーの体験率は24%にとどまっている。ただし、これから体験してみたいとする回答も約3割にのぼっており、潜在的な需要の存在がうかがえる。
- 25) 2019年のアンケートでは、最多の回答が「耳をすませばのモデルの街」の75.5%(553人)、2番目は「多摩ニュータウンがある街」の46.9%(343人)で、今回の結果とほとんど同じ数値となった。詳細は、毛利、森田、渡邊(2020)を参照。
- 多摩市役所(n.d.)。「南多摩3市観光連携推進協議会について」, <https://www.city.tama.lg.jp/0000012706.html>, 2022年3月4日閲覧。
- 東京都市長会企画政策室(2015),『多摩地域における「まち歩き」のすすめ 一歩いて見つけよう, 感じよう わがまちの魅力ー』。
- 東京都市長会(n.d.)。「政策提言」, <https://www.tokyo-mayors.jp/katsudo/seisaku.html>, 2022年3月4日閲覧。
- 日本観光振興協会(2021)。「令和3年度版 観光の実態と志向 ～第40回国民の観光に関する動向調査～ コロナ禍における観光旅行に対する意識・実態」,『全国観光情報サイト 全国観るなび(日本観光振興協会)』, <https://www.nihon-kankou.or.jp/home/userfiles/files/js03point.pdf>, 2022年3月4日閲覧。
- 毛利康秀(2022)。「バーチャルツアーリズム(オンラインツアー) 概念の再検討ー新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行以降を中心にー」,『日本大学文理学部情報科学研究所 年次研究報告書』, 22, pp.1-12。
- 毛利康秀, 森田利夫, 佐藤彰宏(2017)。「多摩市の特色を活かした「まち歩き観光」の展開および効果の検証に関する研究」,『多摩ニュータウン研究』, 17, pp.41-58。
- 毛利康秀, 森田利夫, 渡邊哲也(2020)。「多摩市におけるコンテンツ・キャラクターの定着と地域イメージの形成に関する考察」,『多摩ニュータウン研究』, 22, pp.15-25。
- 森田利夫, 鴨川美紀, 毛利康秀(2014)。「多摩市聖蹟桜ヶ丘における地域活性化の試みに関する報告ーせいせき観光まちづくり会議の活動紹介ー」,『多摩ニュータウン研究』, 16, pp.106-115。
- Laura Begley Bloom(2020)。「Ranked: The World's 15 Best Virtual Tours To Take During Coronavirus」, Apr 27, 2020, <https://www.forbes.com/sites/laurabegleybloom/2020/04/27/ranked-worlds-15-best-virtual-tours-coronavirus/?sh=58e2c5806709>, retrieved Mar 4, 2022.
- 歴史古街道団(2021)。「万葉時代・防人の道 “古代東海道ウォーク” 2021」,『ようこそ歴史古街道団 - rekkodan』, <https://www.rekkodan.com/b20211121/>, 2022年3月4日閲覧。

引用文献一覧

- HIS(2021)。「HIS オンライン体験ツアー体験者数15万人突破」,『HISグループ公式サイト』, <https://www.his.co.jp/news/11092.html>, 2022年3月4日閲覧。
- 太田均(2019)。「日本におけるまち歩き事業の系譜・類型と比較」,『日本国際観光学会論文集』, 29, pp.199-207。
- 国土交通省, 経済産業省, 文化庁編(2005)。「映像等コンテンツの制作・活用による地域振興のあり方に関する調査」。
- 多摩市観光まちづくり交流協議会(n.d.)。「多摩市観光まちづくり交流協議会」, https://www.instagram.com/tamashi.youkoso_ttacc/?hl=ja, 2022年3月4日閲覧。
- 多摩市役所(n.d.)。「多摩市観光まちづくり交流協議会」, <https://www.city.tama.lg.jp/0000008645.html>, 2022年3月4日閲覧。
- 多摩市役所(n.d.)。「多摩市のまち歩き」, <http://www.city.tama.lg.jp/0000002645.html>, 2022年3月4日閲覧。